



世界一周航海記 2

グループリビングえんの森 安岡芙美子

最北の国アイスランドは自然エネルギーの国でもありました。火山国なので地熱発電が盛んなのです。日本も同じ火山国なので地熱発電を行えば原子力に頼らなくても必要な電力は賄えるはずとの話も聞きました。また地球を形作るプレートのなかの2つが毎年何センチか互いに離れて行っている断層を見ることができ地球の壮大な動きを感じることができました。

さて北極圏に近い海はすばらしく荒れていました。物につかまっていなければ歩くのもままならないほどで、ベッドや階段から落ちて何人かが骨折したほどでした。これが10日ほど続いたのでしょうか。みんな良く頑張りました。いい思い出です。

アメリカのニューヨークをへてカリブ海に入ると暖かく、おだやかな旅となりました。

中米で特筆すべきはキューバで、老人福祉施設を訪問しお年寄りと交流しました。100人ぐらいいたのでしょうか。日本でいえば老人福祉センターかデイサービスという感じの通所型の施設で、お年寄りはとても元気でサンバを踊って歓迎してくれました。私たちも急きょお返しに炭坑節を踊ったのですが、お年寄りといえどもリズム感のいいキューバ人はすぐにサンバなまりの炭坑節で合流し大いに盛り上がりました。キューバはアメリカの経済封鎖が続き、とても貧しいのですが医療、教育は無料で、おそらく生活の最低限は保障されているのでしょう。とにかく高齢になるまで生きられることに感激しましたし、物乞いする子供もいなくて、みんなきちんと靴をはいて広場でサッカーなどで遊んでいたことにも感激しました。

またあまり知られていない国ですがニクアラガもコントラとサンディニスタ戦線の内戦を終え今は平和を保っています。この国も医療、教育は無料で頑張っているようでした。かつてアメリカの植民地同然だった中米も変わってきているようです。

そしてハワイをへて横浜に帰ってきたのですが、多くの国々を回って感じたのは平和の大切さです。人が人間らしく生きられる、高齢者が高齢者として尊ばれる、子どもが子どもらしく遊んだり勉強できるのも平和あつてのことです。日本ももっと実質的な貢献をしなければと感じました。